

授業科目	クリティカルケア看護学				単位	1		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	NU31605J		
開講年次	4	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-2 DP4-3			
担当教員	財津 倫子、高橋 甲枝							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>実務家教員として冠状動脈疾患ケアユニット等の経験を生かし、以下の講義を行う。</p> <p>本科目では、救急・クリティカルケア看護を必要とする患者の「いのちを守るために必要な援助方法」を学ぶことを目的とし、学内での演習を通して展開していく。</p> <p>学内で、救急・クリティカルケア看護を必要とする患者・家族への迅速かつ適切な看護援助に対するアセスメントの基礎的な学習をグループワークで実施する。さらに、患者の観察、看護援助、学内で学びの共有をすることで救急・クリティカルケア看護の専門性について知見を深める。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者及び家族の精神的ケアについて、危機理論・危機介入及び倫理的課題・倫理的調整を踏まえて説明できる(DP1-2,DP2-1)。 2. 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者の「いのちを守る」ための看護の特徴を説明できる(DP2-1)。 3. 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者の観察および看護援助について安全・安楽の観点から根拠を述べることができる(DP2-1)。 4. 人工呼吸器装着中の看護実践を体験し、知見を深めることができる(DP3-1,DP4-1,DP4-2)。 5. 救急・クリティカルケア看護の専門性について考察することができる(DP2-1,DP3-1,DP4-3)。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	45	55	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)			20				20	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			20	10			30	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)				10			10	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)			5	5			10	
態度(DP4-2)				20			20	
態度 (DP4-3)				10			10	
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				

<p>・標準的なレベルも行動目標 1～5 の全てを達成したうえで、学習および体験を通して救急・クリティカルケア看護の重要性について述べることができる。</p> <p>・救急・クリティカルケアにおける人間の尊厳を支える看護について自らの考えを述べることができる。</p>		行動目標 1～5 を修得できる		
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>テーマ`救急・クリティカルケア看護学演習</p> <p>ガイダンス(財津、高橋)</p> <p>・患者・家族の倫理的課題を説明できる。</p> <p>・医療従事者の倫理的課題を説明できる。</p> <p>・鎮痛・鎮静管理について説明できる。</p> <p>・危機理論、危機介入について説明できる。</p>	<p>・シラバスを用いてオリエンテーション</p> <p>・グループ編成、調べ学習</p>	講義中に課題を提示する。	60
2	<p>テーマ`救急・クリティカルケア看護学演習</p> <p>ガイダンス(財津、高橋)</p> <p>・患者・家族の倫理的課題を説明できる。</p> <p>・医療従事者の倫理的課題を説明できる。</p> <p>・鎮痛・鎮静管理について説明できる。</p> <p>・危機理論、危機介入について説明できる。</p>	<p>・シラバスを用いてオリエンテーション</p> <p>・グループ編成、課題学習</p>	講義中に課題を提示する。	60
3	<p>テーマ`危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題について、思考を深める。事例を検討する。(財津、高橋)</p> <p>・患者、家族の倫理的課題、看護師の倫理的ジレンマの発生要因、看護師の対応のあり方</p> <p>・鎮痛方法、鎮痛評価</p>	グループワーク	講義中に課題を提示する。	60
4	<p>テーマ`危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題について、思考を深める。事例を検討する。(財津、高橋)</p> <p>・患者、家族の倫理的課題、看護師の倫理的ジレンマの発生要因、看護師の対応のあり方</p> <p>・鎮痛方法、鎮痛評価</p>	グループワーク、プレゼンテーション	講義中に課題を提示する。	60
5	<p>テーマ`人工呼吸器装着中の看護ーその1</p> <p>(財津、高橋、認定看護師)</p>	講義・演習	講義中に課題を提示する。	60

	・人工呼吸器の構造と機能について学ぶ。			
6	<p>テーマ`人工呼吸器装着中の看護一その1</p> <p>(財津、高橋、認定看護師)</p> <p>・人工呼吸器装着中の全身管理について学ぶ。</p> <p>・合併症予防の看護について学ぶ。</p>	講義・演習	講義中に課題を提示する。	60
7	<p>テーマ`人工呼吸器装着中の看護一その1</p> <p>(財津、高橋、認定看護師)</p> <p>・人工呼吸器装着中の全身管理について学ぶ。</p> <p>・合併症予防の看護について学ぶ。</p>	講義・演習	講義中に課題を提示する。	60
8	<p>テーマ`人工呼吸器装着中の看護一その2</p> <p>(財津、高橋、認定看護師)</p> <p>・人工呼吸器の構造と機能について学ぶ。</p> <p>・人工呼吸器装着中の全身管理について学ぶ。</p> <p>・合併症予防の看護について学ぶ。</p>	講義・演習	講義中に課題を提示する。	60
9	<p>テーマ`人工呼吸器装着中の看護一その2</p> <p>(財津、高橋、認定看護師)</p> <p>・清潔ケア(口腔ケアを含む)、合併症予防 (肺理学療法、体位ドレナージ)の看護について</p>	講義・演習	講義中に課題を提示する。	60
10	<p>テーマ`人工呼吸器装着中の看護一その2</p> <p>(財津、高橋、認定看護師)</p> <p>・清潔ケア(口腔ケアを含む)、合併症予防 (肺理学療法、体位ドレナージ)の看護について</p>	講義・演習	講義中に課題を提示する。	60
11	<p>テーマ`急性期看護学における、生命の危機 的状況にある患者の看護 その1</p> <p>(財津、高橋)</p> <p>・脳神経・運動器・消化器疾患患者の病態・検査・看護 について学ぶ。</p>	講義	講義中に課題を提示する。	60
12	<p>テーマ`急性期看護学における、生命の危機的状況 にある患者の看護 その2</p> <p>(財津、高橋)</p> <p>・循環器・呼吸器疾患患者の病態・検査・看護につい て学ぶ。</p>	講義	講義中に課題を提示する。	60

13	<p>テーマ`全体講義のまとめ</p> <p>学内での学びや体験を通して、救急・クリティカルケア看護の専門性について考察する。クリティカルケア看護の学びを深め共有する。</p> <p>(財津、高橋)</p>	グループワーク及びプレゼンテーション	講義中に課題を提示する。	60
14	<p>テーマ`全体講義のまとめ</p> <p>学内での学びや体験を通して、救急・クリティカルケア看護の専門性について考察する。クリティカルケア看護の学びを深め共有する。</p> <p>(財津、高橋)</p>	グループワーク及びプレゼンテーション	講義中に課題を提示する。	60
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	既習の形態機能学、疾病論、基礎看護技術、成人急性期看護方法論、やヘルスアセスメントで学んだ内容について振り返っておくこと。			
テキスト	特に定めない。必要時、資料等を配布する。			

参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	適宜紹介する。
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・演習で使用する資料は、必要時演習前に配布します。 ・クリティカルケア看護学は、グループワークと講義を通して、クリティカルケア看護の重要性を考える科目です。卒業後の進路を含め、クリティカルケア看護領域に関心のある皆さんが選択することを期待しています。 ・集中ケア認定看護師による実践的な講義を行います。実際の人工呼吸器を用いて、患者体験を行い、患者のおかれている状況を理解するとともに、その看護について学びを深めることができます。 ・本講義は集中講義で行います。 ・外部講師の予定により、日程変更の可能性があります。
達成度評価に関するコメント	レポート評価 45%、グループワーク・発表・授業貢献度 55%

